

令和4年7月1日

丹波篠山市長 酒井 隆明 様

丹波篠山市議会議長 小畠 政行



議会報告会における提言書の提出について

丹波篠山市議会では、市民に開かれた身近で信頼される議会、市民の負託に応えられる議会の実現を目指し、市政全般にわたって、議員及び市民が自由に情報及び意見交換をするために議会報告会を開催しています。

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年・3年は対面での開催を見合わせ、ユーチューブによる配信を致しましたが、令和4年度については5月10日から5月31日の間に市内19地区で開催し、充分な感染対策を取りながら直接市民の皆様方のご意見をお伺いさせていただきました。

自治会長を始め、まちづくり協議会長、子育て世代の保護者や地域住民の皆様など、多くの方々にお越しいただき、貴重なご意見・ご要望を数多く頂戴致しました。

今回、頂戴しましたご意見・ご要望の中から、本議会として特に喫緊の課題であると考える内容について提言いたしますので、今後の予算・事業などの市政運営に反映していただき、「市民が暮らしやすい丹波篠山市」に向けて、より一層の創意工夫・特段のご配慮をお願い致します。

1、農業の担い手不足の早期解消・具体的な取り組みを

丹波篠山市の基幹産業である農業を支える担い手の確保は、本市が抱える喫緊の課題の一つであり、有効な具体策が求められている。

また、耕作放棄地の発生や、畦畔の草刈りもままならないなど、後継者不足により地域の環境面にも影響を及ぼしている。

農都丹波篠山を後世に引き継ぐため、農業者に限らず広く意見を吸い上げ、課題解決に向けた具体策の検討に取り組まれたい。

2、人口減少、少子高齢化に伴う具体的な過疎対策への取り組みを

「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法」において、旧篠山町が過疎地域に指定された。人口減少や少子高齢化が急速に進んでいることで、多くの集落が消滅の危機に直面している。

人口の減少や、子どもや若者の減少は、地域の活力が低下するだけではなく、商店街や地域経済の衰退を招く恐れがあることから、人口の確保は地域及び丹波篠山市を維持していくために不可欠であり、住民の暮らしや経済活動を支えていく政策の立案・推進に取り組まれたい。

3、進学を希望される学校づくり、通学の利便性向上への取り組みを

近年、市内中学生が市外高校への進学を希望する割合が増加傾向にあり、市内高校において定員が満たない事象が生じている。市内の中学生だけでなく、市外の中学生も市内の高校に進学したくなるような施策（魅力あるカリキュラム、交通費補助など）について、現状を把握した上で実際のニーズに即した事業の立案・推進に取り組まれたい。

また、通学に対する補助金や通学バスのルート改善など、地域を支える子どもたちへの先行投資が必要であり、ふるさとに愛着を持てるようなオリジナリティのある良質な教育の支援・提供に取り組まれたい。

以上